

特集憲法

わたしと憲法

第4話

ぐらしに憲法を！



岩田 マツエ
楠支部

戦後生まれの私は小さい頃、戦争のむごさ、悲惨さを話す両親に「なぜ皆は戦争反対と言わなかったの？」とよく聞いていた。

両親の応えはいつも決まっていた。「大国アメリカに勝てるはずがなかった。でもそんなことを言ったらローヤに入れられるので皆黙っていた」と。

成人式の日、20歳の全員で憲法の唱和をした。戦争の反省の上に立って恒久平和と国民主権、基本的人権を高らかに宣言した憲法に身震いする程感動し、これから始まる人生に希望を抱いたことを覚えている。

社会人となってからは職場で、地域で、「ぐらしに憲法を！」との様々な運動に、小さい力ではあったが参加できたことは誇りに思っている。ところが最近の憲法改正のもくろみ、国民の多数が反対した「特定秘密保護法」を強行可決したことは許せない。主権者である国民に真実を知らせない、国のやり方に異を唱える人を罰するというこの法案に空恐ろしい未来が見えてしまう。

民主主義社会には合い入れない。これからも主権者として声を上げて行きたいと決意している。